

モニター意見

「防災教育への懸念」

向谷 光彦

平成 16 年の夏は新潟, 福井, 兵庫, 愛媛等々のみならず, 私の暮らしている香川も度重なる災害に遭った。めまぐるしく情報が飛び交う渦中で, 「この教訓を次の減災のために何が出来るか」を問いかける事までは可能であったが, その先を考えることまでは到底追い付いていない。巻頭言の論文を読ませていただき, 多岐にわたる豊富な提案がなされており興味深い。加えて, 地震時の津波と台風時の高潮の混同といった現実的な情報錯綜状態からの脱却, 何かにつけて東京で・・・のお話になってしまうマスコミへの継続的共有関係の構築などが田舎では求められているなど, 我々も自発的に取り組まなければならないと感じさせられた。

佐賀の竜巻災害について

匿名

私はニュース速報でこの件を知りましたが, 速報でははじめ, 強い風が吹いた程度の扱いだったように記憶しています。ところが, 時間が経つにつれ連れ次第に竜巻ではないかとの報道になり, 私も驚いたものでした。

この竜巻が起こった場所はよく知っていますが, 田園が広大に広がるのどかな所で, そのように竜巻がおこるような地域には思えず, 過去にもこの規模のものは例がないだろうと思っていました。おそらくこの学会誌に記事が載るのではと考えていたので, 調査結果を期待していました。

そこで興味深く記事を見ると, 気象的特徴において発生の原因やそのメカニズムには物足りなさが残るものの, 進行経路や規模, 被害状況におい

てはよく調査されていると思いました。

この竜巻に限ったことではありませんが, すべての災害において, その研究結果をたくさんの人々たちを守るために役立ててほしいと思います。

「地震防災と強震動予測」

飛田 哲男

ここ数年来頻発する自然災害に対して, 災害後の復旧・被災者支援体制が迅速に整備されるようになってきた。阪神大震災をはじめ過去の教訓が, 関係各機関・一般市民の間で共有され活かされてきているのだと思う。

しかし, 地震災害についてみると, 依然として倒壊した家の下敷きになったり, 斜面崩壊に巻き込まれ, 尊い命が失われている。

過去の経験を活かす次のステップとして, このような最悪の事態を減らす努力をしない限り, いつまでも地震におびえて生活することになる。本誌論文では, 琵琶湖西岸断層を起震断層とする強震動予測がなされ, 地震動分布の詳細な特徴が明らかにされている。

このようなデータを有効に活用し, 適切な備えをすれば, 将来「地震なんてただ地面が揺れるだけ。いつ来ても怖くないよ。」と多くの人々が思えるようになるだろう。そのためには関係者のさらなるやる気と知恵が必要である。

「被害調査と災害復興」

長谷川雅俊

今年の自然災害はひどかった。テレビ報道の映像は映画「The Day after Tomorrow」を見てい

るのかと思うほどだった。今号に被害調査が2編載っている。次号は台風 22, 23 号, 中越地震の被害調査が速報として載るだろう。被害調査というのは調査される被災者の気持ちをどのように汲んでいるのか気になる。著者はその調査地域と恐らく関係ない方で, 被害を調べたところで被災者には何もメリットはない。被災者によっては疎ましいと思う人もいるだろう。

被災者の気持ちを考えているのは調査できないので
割り切りが必要ということになる。被害調査の方法論は如何に？

期せずして、災害後の復旧・保険についての報告が2編載った(竜巻災害と火山災害)。災害からの復興も自然災害科学の範疇ということなのか。この学会の守備範囲の広さを改めて見せ付けられた思いだ。現在進行形に対する研究はその結果によっては、すぐさま政策などに反映させなければならない。それには研究者も努力しなければならないし、社会のシステムも必要と思う。

論文 火山災害復興における住宅・集落 再建に関する調査研究を読んで

中鉢 令兒

有珠山噴火災害の住民運動を、岡田先生等と共にさせていただき記憶に新しい時に、読ませていただきました。科学が進歩し予知が進み尊い人命の犠牲は少なくなりました。しかし被災者たちにとっての、人生の犠牲は、防ぐことがあまりできないのが現状です。そんな思いをしつつ、読ませていただきました。特に住宅再建で困ったことで、「親しい人と一緒に生活できるか」といった項目がありました。21%の指摘率を示していました。また、それに増して再建の資金調達率が40.6%でした。コミュニティが崩壊し、経済的圧迫がある中で、災害に耐えていくことは大変であると推察しております。集団居住に関するアンケートでもコミュニティの重要性を指摘している方が、40%に及んでいることは、とても素晴らしい事と思いました。崩壊することに自覚のない都市文化よりも意義あることと思いますが、被災者の現実を考えると共同社会が何かすべきともおもいます。まとめを読みましたが、学術論文では仕方がないかもしれませんが、コミュニティ崩壊を防ぐ具体的方法、指針、考え方をお示しいただければ良かったのではないかと思います。